



## A Challenging Job

### 明日へ 未来へ つながる農業⑥

飯伊地域は、生産頭数、肥育技術の高さにおいて、県内屈指の牛の産地です。ここで肥育された牛のみが「南信州牛」と名乗れます。繁殖農家を含め、飯田市には約90軒の農家が牛を生産しています。飯田市箱川で子牛を繁殖している唐澤朝子さんは、就農2年目。20年前に農家に嫁ぎ、繁殖農家として新しい一歩を

### 体の負担が少ない作業環境 女性の就農も

この肉牛の認知度を地元でもさらに上げ、地域ブランドにしていこうと設立したのが、「南信州牛ブランド推進協議会」です。牛肉の生産、流通、販売に携わる人々や団体、さらに飯田市や料飲関係者などがパートナーシップを組み、2006年にスタートしました。

飯伊地域での本格的な肉牛生産のスタートは1934年。以来、農家と指導員の熱意により肥育技術を高め、畜産共進会や全国規模の枝肉コンクールなどで、上位に入賞するほどになりました。地元産の肉牛はおもに関西方面に出荷され、高い評価を得ています。



## 「南信州牛」おいしさの源は 農家の愛情と卓越した肥育技術

南信州牛ブランド推進協議会

### 「いい仲間と競争心」が「南信州牛」を さらにおいしく

「南信州牛」のおいしさの特徴は「霜降り肉の美しさ、まるやかさ、豊かな風味、白く粘りのある脂肪のよさ」と南信州牛ブランド推進協議会事務局。



肥育農家は、2年以上の歳月をかけて牛を育てます。その間の飼育環境が、肉質の良し悪しに影響するのは言うまでもありません。牛にきめ細かな愛情をかける農家の気持ちこそが「南信州牛」の大きな柱となっています。飯伊地域では、手塩にかけた牛を集め、品評する共進会を毎年開催。ほかの農家が育てた牛を間近で見ると、「とても刺激になるし、いい意味でライバル意識も芽生える。なにより、農家同士のつながりが深くなる」と同協議会事務局は話します。「いい仲間と競争心」が「南信州牛」をますますおいしくしています。

### ●「南信州牛 5千円分」が当たる！ 「南信州牛フェア2011冬の陣」開催中 2012年1月31日まで

期間中、フェア参加店舗で「南信州牛」を購入、または食事をするとカードがもらえます。そこに記されたQRコードまたはアドレスにアクセスしてアンケートに答え、抽選でステーキ用またはすき焼き用の「南信州牛5千円分」が当たります。



記事に関する問い合わせ ● 飯田市農業振興センター ☎0265・21・3217

踏み出しました。自宅近くに新築した牛舎には、現在、母牛24頭と子牛がいます。明るく開放的な新しい設備での作業に、「恵まれた牛飼いだなあと思います」と唐澤さん。週末は夫と一緒に作業を行います。平日は1人。女性でも牛の世話ができる工夫があちこちにあり。中央の通路は軽トラや作業用の機械が難なく入れられるくらいに幅が広くとってあり、重い牧草を運ぶのも簡単。牛の首を固定するスタンションを利用すれば、餌やりや治療なども手がかりません。機械を入れて足元のおが粉の交換ができるよう、柵の動きも考えられています。

母牛は1年1産が目安。そのサイクルが崩れると経営に影響します。「餌の食べ具合で体調を判断したり、発情を見極めたり、産み時に気をつけたり」と、細かい観察を怠ることはできません。肥育農家にいる牛と違い、母牛はびっくりするほど小さく、やせていますが「余分な脂肪をつけず、受精がしやすいように」と餌も調整されているのです。

今月は9頭を出荷。子牛は長野県中央畜産市場で1頭ずつせりにかかり、肥育農家へ。中には地元農家に買われ、「南

信州牛」となる子牛もいます。「朝来るとみんなにおはよう、帰る時にはおやすみって言うたりして」と、牛との時間を楽しんでいる唐澤さん。母牛に育児を放棄されたため、唐澤さんがミルクを与えて育てた子牛もいます。母親のように手をかけ、愛情をかけ、大事に世話をしている牛たちは、おだやかでやさしい表情をしています。就農当初、「お母さんは、私たちのお母さんじゃなくて、牛のお母さんなんだねと、娘たちに言われました」と笑う唐澤さん。今では「ご飯のしたくより、牛の世話のほうがいい」と言うほど好きになった牛飼いの仕事。「はじめて良かった」。この気持ちが牛たちにももちろん伝わっています。



牛舎の横にはJAから借り受け、牧草を作っている広い畑があります。「ここらへんには畑や山がいっぱいあるけど、野菜などを栽培してその農地を管理するのは難しいし、維持するのは無理。でも、牧草を作れば、餌代も助かるし、畑も活用できます」